津高同窓会々報

発行所
津市新町3丁目1－1
津高等学校
同窓会事務局

校歌斉唱の流れも熱く

＝昭和48年度総会の記録＝

昭和四十八年度津高同窓会総会は、八月第一日曜日の午前十時より津商大講堂において催された。集える会員一百余名は、なお若い世代の参加も少なく、また若い世代の参加も少なく、集えると変らず僅かではあったが、集える者は諸共にこの世の移り変りを語りながら、熱情溢れる校歌斉唱に歓喜に絶倫気あるいあい時を移し、思い出の多い、意義なる夏の日のひとときを送ったのであった。

この日も暑さはさりながら、昨年同様まこと快晴。

明かるい夏空、爽やかな太陽の光満を浴びて、ここに定刻開会。まず司会者岡村初博氏（S15卒）より開会の辞あり、次いで出制出中旧制津高女、津商の順に、それぞれの卒業者がそれぞれの校歌を熱っぽく斉唱、津高校歌の中の源達出で来る　古き流れの　ことに胸い……」なる感動がまこと実感として胸に迫る一瞬ではある。

次に会長の挨拶。

これにあって会長は、特に若い世代の方々の出席を要望され後会報で次の総会の日時等をよくみて覚えておいて欲しいこと、室都大阪、三重県、土地問題、本会参与および事務に関すること、今後の総会のもち方などにつき詳細に話され、最後に後援会長文氏（S16卒）、岩田、伊勢志摩支部の披露をはなされた。次に学校長挨拶。小竹校長はこの日全国総体の関係に臨席されず、三ツ村教頭がこれを代行同教頭はこれにあって同窓会の絶大なる支援に対し深甚の謝意を表され、津商の進学就職状況、現在生徒の学園生活の模様、適正なる学校規模の必要性などについて述べられ、最後に学校をよりよくするためのご意見を大いに寄せられたき旨要望された。

かくて、その日の議事は終了、司会者より閉会の辞あって後、場所を移して懇親会に移る。楽団フィッ・スポットによる賑々しき歌動の年も改まり、指様にはいつにない緊張のあられる第一推察の挨拶事に入る。議事に先立ち、昨年同様、浅井敬明氏（T8卒）を議長に選出。この名議長の後挨拶あって後、度ちに注意二氏（S10卒）より四十七年度事業報告ならびに会計報告あり、次いで三宅克也氏（S23卒）より会計監査報告がなされ、全員拍手をもって決算を承認。次いで役員の改選に入るも、結局全役員の留任が決定。これより役員の挨拶あって後、阿部喜兵衛副会長（S4卒）より会則一部改正の提案がなされ一同賛成なく、拍手をもってこれを決定。最後に協議三氏（S23卒）より四十八年度事業計画および予算案の説明あり、これまた拍手でもって承認、可決成立。

かくして、ここに議事は終了、司会者より閉会の辞あって後、場所を移して懇親会に移る。楽団フィッ・スポットによる賑々しき歌動の年も改まり、指様にはいつにない緊張のあられる第一推察の挨拶事に入る。議事に先立ち、昨年同様、浅井敬明氏（T8卒）を議長に選出。この名議長の後挨拶あって後、度ちに注意二氏（S10卒）より四十七年度事業報告ならびに会計報告あり、次いで三宅克也氏（S23卒）より会計監査報告がなされ、全員拍手をもって決算を承認。次いで役員の改選に入るも、結局全役員の留任が決定。これより役員の挨拶あって後、阿部喜兵衛副会長（S4卒）より会則一部改正の提案がなされ一同賛成なく、拍手をもってこれを決定。最後に協議三氏（S23卒）より四十八年度事業計画および予算案の説明あり、これまた拍手でもって承認、可決成立。

かくして、ここに議事は終了、司会者より閉会の辞あって後、場所を移して懇親会に移る。楽団フィッ・スポットによる賑々しき校歌斉唱の中、相共に涙を拭みて寿司やつまみなどをほうばりながら友愛の盛況みかわす。かくて名残り惜しみつつ大方が散会したは、正午を半刻ばかり過ぎた頃だった。

（市川記）

エゴ的人間を無くしたい

津高等学校長　小竹　惟

日本人の公徳心欠如ということが、いよいよ致命的な欠陥であることを誰もが思い知るようになっているかどうかは、今までの教育の成果の有無を問い、今後のあり方を考える上で大きな関心事である。

静かに明けた昭和四十九年の新春は正月三ケ日の間、近年にない好天に恵まれ、登山客も一入の感じが致しました。

会員の皆様方も御健やかに迎春の御事と拝察し度心より御慶び申上げます。

却説、静かな、穏正月の天候とは裏腹にエネルギー資源の不足端を発した騒乱し、買あり、これに乗じての価格つり上げの策謀等昨年末の様相をそのまま持ち越して尚エスカレーターを続けようとしている現状は資源貧国の脆弱さを、あます所なく露呈したものと思われます。物質文化に切磋琢磨され高度成長だ文化生活ブ使い捨てだなどと言葉になっていたのは、つい数ケ月前の日本人の姿でした。それが神上の機関のようにもろくも崩壊したのは石油問題が主なる要因であったとは……。自給自足の不可能な国民は常に最悪の事態を考慮しながら、もっと真剣に生きるべきであり、これ、絶機とし、神の啓示として謙虚に受け止めるべきであると思います。

物質文化の向上に反して精神文化は見ぶみし、後退し、忘れ去られようとしています。例えば国旗行事の廃れ、郷土芸能が過疎による若人不在の為に継続不能となり自然消滅の憂目をみています。僅にもろくも崩壊したのは石油問題が主なる要因であったとは……。自給自足の不可能な国民は常に最悪の事態を考慮しながら、もっと真剣に生きるべきであり、これ、絶機とし、神の啓示として謙虚に受け止めるべきであると思います。

物質文化の向上に反して精神文化は見ぶみし、後退し、忘れ去られようとしています。例えば国旗行事の廃れ、郷土芸能が過疎による若人不在の為に継続不能となり自然消滅の憂目をみています。僅にもろくも崩壊したのは石油問題が主なる要因であったとは……。自給自足の不可能な国民は常に最悪の事態を考慮しながら、もっと真剣に生きるべきであり、これ、絶機とし、神の啓示として謙虚に受け止めるべきであると思います。

人間教育に重点を

―年頭に寄せて―

会長　大藪　治郎

にしある人達によって復興されてはいますものの教える程しかないのは洵に寂しい限りと存じます。

教育面におきましても智育偏重となり精神面が放置されたままとなった為、何時の間にか自己主張と勝手気儘な行動が大手を振って帰り通る世の中と成り果ててしまいました。

翻するに現在の急務は先ず第一に教育の原点に返し、人間教育に重点を置くべきではないでしょうか、同窓会としても後輩諸君の為にもこうした気運を盛り上げたいと思いますが如何でしょうか？

昨年八月五日津商工会議所で同窓会総会開催、その席上、役員は全員留任を決定しました。過去一ケ年不自由の身を以て会長の重責を大過なく果し得ましたことは会員諸様方の御教唆、御協力があったればこそと心から深く感謝致します共に旧に倍して向後一層の御力添を御願い申し上げます。

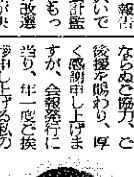
本年は五六名の新しい会員を受け入れる予定で誠に喜ばしい事で御座います。然しながら陳川と三重県に二つまして、昭和四十七年度総会の西、陳川三十名、三重県十名の減員でありました。

ところが四十八年度は陳川三十九名、三重県五十六名と思いがけなく多数の会員が幽明境を異にして帰らぬ旅路に立たれました。生者必滅会者定離とは申しながら人の世の儚さを今更の如く痛感させられます。指様と共に今は亡き会員諸賢の御冥福を御祈り致したいと存じます。それにつけても会員の皆様方には何卒御自愛の上益々御健勝であらまほしう、とりわけ陳川、三重県の方々は何時までも若々しく御元気でありますようにと神かけて御祈り申し上げまして筆を擱きます。

（S四九、一、一〇）

若い力に期待

副会長　阿部　喜兵衛



いかと日頃から心かくだいている次第です。総会にも是非若い方々が多数出席していただきたい、うんと音頭もとってゆかれる卒業生諸君の若い力が原動力にならなければいけない、若い力で活を入れてもらわねば同窓会も先細りとなるのではないかと思います。

段々と数年後には百周年を迎えることとなりますので、百年の歴史の生きた証人として、明治、大正の大先輩の方々の思い出など、録音しておきたいという話が出て本部でも真弓六一氏を中心に着々準備をすすめております。機会をいただきたいものです。

昨冬、同窓会発足以来副会長としてひたむきな活躍をいただいた竹熟先生の急逝に会い、本部一同唖然としております。先生のご冥福を心からお祈りし、短いご挨拶を終ります。

最近卒業生進路状況

四十八年三月卒業の者を中心に最近の卒業生の進路状況をお知らせします。

在籍数五六〇名（男三七五名、女一八五名）のうち、進学三五一名（男一八八名、女一四三名）進学待ち一九名（男一六五名、女三名）、就職一〇名（男一名、女八名）、家事従事三名（いずれも女）といった状況でした。

この中で、進学待ちの一九名は例年よりもいようですが、これは大学へ合格しながら浪人した者をかなりかんん入数です。本校生が受験するのは、毎年かなり難関とされる学校が多いのですが、今回の主な大学への合格者数を一部おつたえしますと、たとえば東大には十一名（うち浪人三名）、京大には二十四名（うち浪人十名）、阪大には八名（うち浪人二名）、地元の三重大には六十二名（うち浪人十七名）、名古大二十名（うち浪人七名）、静岡大二十五名（うち浪人二名）、広島大には四十一名（うち浪人十名）、慶応には二十一名（うち浪人六名）、同志社には四十九名（うち浪人十二名）、立命館には六十二名（うち浪人十八名）、等々といった具合でした。

最近はご承知のように、いろいろな面において大学に関する問題点が指摘され、新構想大学、統一テスト、一期校、二期校入試問題の問題等、大学入試の流れそのものをも大きく変えようとする動きもみられますが、学校としましては、いろんな情報を的確に把握するよう努めながら、一人でも多くの生徒が希望する大学へ入学できますよう、指導の方を現し度く思っております。

次に就職について申しますと、今回も本校を卒業しすぐ就職した者は例年同様少なく、男一、女八の僅か十名でした。その就職先は、男子は社会保険事務所、航空自衛隊、女子は西田商店、中部電力、商工中金、四日市近鉄百貨店、三重県庁、津警察署、日本航空といったところでした。本校卒業者は大抵の就職先で上司の信用も厚くその評判も伸々に良いようで、学校としましても、非常に嬉しく思っております。

四十九年三月卒業生も、就職希望者七名（女子）の就職が既に内定し、あと五五人名が大学を受験いたします。就職生で、また進学生で、先輩の皆様方にいろいろお世話をおかけすることになると思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

（市川記）

本年度総会のお知らせ

本年度津高同窓会総会は、左記のように行われることになりましたのでお知らせします。議事終了後いくつかの会場に分れて懇談会をもつことも考えられています。どうぞ多数ご来会下さい。

一、日　時　四十九年八月四日（第一日曜日）十時より

一、場　所　津商工会議所

なお三重桜部の総会はこれに先立って左記のように行われます。

一、日　時　四十九年四月二十一日（日）十時より

一、会　場　津市一身田町　高田本山青少年会館

一、竹島先生追悼会　十時より

全国高校総体に活躍

四十八年度クラブ活動状況

去年八月上旬、三重県を中心に開催された全国高校総合体育大会に、三重県代表として、本校の卓球、籠球、ボート、軟式庭球、硬式庭球が、出場し、活躍したとき、最大のトピックスとなっています。全国の精鋭に対し、地元代表として、声援をうけ、日頃の練習の成果を十二分に発揮するため絶好の絵舞台に登場し、ベストをつくしました。卓球男子に安井・岩間組、籠球男子（二回戦、仙台育英高校に惜敗）、ボートに高校男子、軟式庭球・和田・藤岡組、内田・高橋組が、硬式庭球：村田・吉田組が出場しましたが、全国の壁はあつく、その後、連日練習にがんばっています。

全国総体には、出場出来ませんでしたが、県内予選で、上位で、出場権が獲得出来なかった部に、剣道、ハンドボール男子、弓道で実力的に大差はなく、飛躍重要を期して、頑張っております。

総体関係以外で、本年、大活躍したのが、軟式野球部で、去夏、優勝して中部大会へ、秋には、又優勝という目ざましい活躍です。又、例年大活躍の弓道部も、秋季大会には、男子・優勝、女子・三位というすばらしい成績を上げています。地味ながらも伝統のバレー部も、男女両チームとも、着々と実力養成中で、混戦の中部地区から、県大会出場権を獲得して、活躍したのも二つの話題でした。

文化部においても、派手さはありませんが、活躍したのに、弁論、音楽があります。中でも、弁論の大島君と松枝君は、県内は、無論、東海三県に対して足を伸ばし優勝、入賞、また優勝と立派な成績を残し、音楽部も県内各コンクールにおいて、美しい、ハーモニーで聴衆を魅了しました。

他の文化部も、県内大会や校内文化祭において、堂々日頃の成果を発表し、存在価値を高めております。

以上が概略ですが、各部とも、結果になって現われたことは、ごく一部で、四季を通じ、こつこつかの試合のために、先生と生徒が、上級生と下級生が、選手と補欠が、一つになり、正課時間内には学べない「何か」を得るため、練習はげんでおりますので、今後も、機会があれば、先輩諸兄姉たかい御指導の言葉を頂ければ、非常に喜ぶことと思います。（紙谷記）

野球部の思い出

田中良太郎（S30）

憧れの甲子園出場から二十年が早や経ちました。野球に青春を賭けた忘れることの出来ない思い出です。

当時のメンバーは今でも"三津二百会"と称して野球部の感人である岩橋次郎さんを囲んで集まっては球友を暖め多方面で活躍中です。

主将1番）ショート近藤（現岡三証券松山支店長）　2番センターカンド阿部（自営）　3番サード白山（国民金融公庫岡崎支店）　4番センター奥山（神戸高校教員）　5番ピッチャー上川（大川製作所社長）　6番キャッチャー菊山（菊山鋼材社長）　7番ファースト川村（農林省統計事務所）　8番ライト中村（旧姓笹井　西日本セブンスリー）　9番田中（筆者　現在は松浦（和田　勝業術製造）　伊藤（前三重交通監査）　伊藤（伊勢ガントリー支配人）　吉田（吉田運動具店）　浜口（自営）　清水（中電）　小川（東海銀行千葉支店）が居り、いずれも野球の虫ばかり。当時頭角を表しはじめた津高のギリン児浅井さん（日通）、郡さん（鈴作）のバッテリー、続いて津市内にこの人ありと言われた中道さん、水谷正（中電）さんらの活躍に憧れ津高の門をたたいた連中ばかりでした。練習は苦しかったが、当時から進学校的要素があった津高は比較的のんびりした練習だったと思います。

クラブ活動の予算は野球部が一番やくとっていましたが、それでも道具は高く遠征費用に事欠くしまつ。この様な経済状態を援助して頂いたのが故岩橋次郎さんでした。グラウンドのバックネットをはじめ遠征の度の交通費はたまたまは年月に年始に行き、お年玉まで全員に頂く始末。今考えても大変なことをとつくづく思います。

我々まねの出来ることではありません。この時点一年後に甲子園出場出来ようとは夢にも思っていませんでした。

練習の終わりは「高き峰ケの峰により…」と野球部歌の合唱ではじめて終わり飲む水のうまかったこと、この様な事を重ねるうちに勝つ野球という海を入れてもらったのが諸先輩の方々はもちろんですが、菊山君のパ岩三郎さんでした。

技術的にもうゆばれている我々の前でピッチャーをされ、現役のバッティング練習に参加されたこれには脱帽非を抜かれました。チームとしてのバッターに立っては皆さん武士が白刃を交える気構え……といった精神的リードは知らず知らず我々の自信に変わっていたかも知れません。

この様な時間が経ち昭和二十八年夏の予選が始まります。県大会はシード校で苦戦しながら勝ち進み全国出場権を得る。山藤と相まみえ三戦投手に敗られ県大会は準優勝に終わりました。続いて同じ津球場で三戦大会、校長渡辺九郎治さん、PTA会長大藪治郎さんなど学校関係者、岡村初博（現銀行）さんなどの応援で試合の方は、一回戦岐阜高（現ジャイアンツの森選手がやはりキャッチャーでいた）に近藤のホームラン（ソロ）中村（笹井）の好リリーフで四対三でやっと勝ち、いよいよ幸いし、大川の好投、白川の劇的な満塁ツーベースで二塁に活躍、最終イニングクスを捉て投げる梶本投手が印象的でした。もちろんいった、リラックスした気持ちがつづく二年後には四日市高が全国優勝を果たしています。（以下敬称）

三重県立津高等学校同窓会会則

S35年8月7日制定施行
S46年8月1日改　制
S48年8月5日改　制

（名称）
第1条　本会は、三重県立津高等学校同窓会と称する。

（事務局）
第2条　本会の事務局は、三重県立津高等学校内におく。

（会員）
第3条　本会は、次の会員をもって構成する。
1、正会員　三重県立津中学校、三重県立津高等女学校、三重県立津高等学校の卒業生および上記の三校に在学したもので入会を希望するもの。
2、特別会員　上記の三校に在職した教職員

（目的）
第4条　本会は、会員相互の連絡をはかり親睦をあつすることを目的とする。

（事業）
第5条　本会は、前条の目的達成のため会員名簿および会誌を発行し、その他必要な事業をおこなう。

（役員および顧問、参与）
第6条　本会に次の役員をおき、顧問、参与をおくことができる。
1、会　長　1名
2、副会長　6名
3、庶　務　1名
4、会　計　1名
5、常任幹事　若干名
6、年度幹事　若干名
7、会計監査　4名
8、顧　問　校長および元会長
9、参　与　各地区同窓会長および特別会員中原則として10年以上母校に在勤した母校出身者

（役員の選出）
第7条　1、会長、副会長、庶務、会計および会計監査は、総会で選出する。
2、常任幹事は、年度幹事から会長が指名し、総会の承認をうる。
3、年度幹事は、各クラス会から選出する。
8、顧問および参与は、会長の相談に応ずる。
7、会計監査は、本会の会計を監査する。

（役員の退出）
第8条　役員の任期は2年とする。
但し重任は妨げない。

（機関）
第9条　本会に次の機関を設ける。
1、総　会　年1回
2、常任幹事会　年数回
3、年度幹事会　年数回
総会、常任幹事会、年度幹事会は、会長がこれを招集する。

（事務局）
第10条　本会の業務の円滑化をはかるための事務局を設ける。
事務局には、書記をおくことができる。
書記は、庶務、会計の事務を処理する。
書記の任免は、常任幹事会の承認をうけて会長がこれをおこなう。

（会計）
第11条　本会の会計年度は、毎年6月1日から翌年5月31日までとする。
本会運営に関する経費は、入会金、会員の納入する、終身会費（1口、1,500円）または、年度会費（毎年100円）、寄附金、その他をもってこれにあてる。
正会員は、入会に際し入会金として1,080円を納入する。

（支部）
第12条　本会に支部をおくことができる。

（附則）
1、本会会則は、昭和48年8月5日からこれを施行する。
2、本会の会則は、総会において、出席会員の過半数の賛同により改正することができる。

旧師短信

(4)

家垣　岩雄

昨年四月桔梗丘高校に転任し、新設校の苦しみを味わっているうちに一年たちました。学校をかわってみて、つくづく津高のすばらしさ、有難さがわかりました。

毎朝七時に起き、七時半に家を出ます。一六五号を通って春山を越え、丁度三十分で学校に着きます。大体いつも一番乗りです。諸先生が出勤されるまでに、その日の出張の先生、年休の先生等を所定のところに板書して、連絡事項などを整理していると八時半です。

これからが生徒との勉強です。午後二時三十五分第六限が終わるまで緊張の連続です。

最初普通教室十八だけから出発して現在は音楽室、視聴覚室、理科教室、家庭教室も一応出来ました。

昨年十二月末武道場も出来ました。この一月二十五日には道場開きを計画しています。こんな環境の中で、あれやこれやと心を入れてもがいているうちに今日まで来ました。知人に出会いますと、よく、新設校は苦しみもあるだろうが、その反面校風を作り上げてゆく楽しみもあって面白いだろうなんて言って下さいますが、なかなかたのしみなどというものはそう感じていはきません。ただ環境が桔梗丘出身の一番古所にあるため、太陽と松の緑には事欠きません。その中にある金魚だけが現在の私の心を癒してくれます。

妙なことですが、津高を出て、津高にあこがれ、津高に目標をおいて小心ながら頑張っているようの方在の私の近況です。

今井　孝

津高から県教委事務局へ転出してから早や一か年近くの月日が経過しました。母校の津高に十二年間勤務し、楽しくすごさせていただいた環境から一変して、未経験の仕事を担当し一年生の歩みを続けております。

当初は生活のリズムの変化に慣れるのに苦労しました。一授業、教室への往復だけ校内を動きまわっていたのが机に向う時が多い日々にかわり、屋内に食欲がおとらないなど、現在はようやく慣れて元気ですごしております。健康増進のため積極的に体を動かすことが必要だと自分に言いきかせているのですが思うようにまいりません。

通勤の途中で津高生の話を聞いております。先生方のお名前がとびだし、「生徒をきたえてみえる様子」「文化祭などの行事」など年々とした活動の場を想い出します。また、先日は卒業生に逢い、火災（昭和三十七年十二月）現場の片付けで、灰をかぶって苦労したことなどをともども卒業生の心境を語りあい、話がつきませんでした。津高における数々の経験が後の歩みのなかで大きな力となることを信じ、大切にしたい心境です。

新年度から新設校とともに総合選抜制が実施されることになりましたが、津高が無限に生徒発展の道を進まれることを期待しております。

皆様のご健康と多幸をひかり祈念いたします。

城　秀一

甲寅の新春、恒例の全国高校サッカー選手権大会観戦する機会に恵まれた。二試代表の四日市中央工業高校に弟が監督をしていることも手伝って熱狂的な応援をした。対神戸高（兵庫）、対本郷高（東京）とも同点のPK戦、選手団は勿論のこと観衆はコールネットをゆさぶる迫力のシュートにかたずをのんだ。二試合とも僅少差で勝った。極度な緊張、土壌場に立たされた勝負に挑む選手の姿は誠に圧巻で、また人生の試練の縮図でもあった。津高で八年間サッカー部の顧問をやっていた時が無性になつかしくよみがえり、中でも県大会で優勝した感激など、血潮がみなぎってきた。部員の奮闘が、それに派生して当時の皆様の姿が、鼻の知く留めどもなく浮かんできた。不肖私も教員生活十五年、如何に価値ある仕事をしていたのだなあとその尊さを痛感した。現在、県庁のコンクリート箱の中で暗中模索の思いで不慣れな事務をやっている。生意気に県教育長展のため駄馬にむちうち頑張っている。"君に遊びを忘れるな"（ハンドルの遊びのようなもの）をモットーにリズムを乱さず生活していこうと思っている。職場にも教え子がたくさんいてそれぞれの近況など言にするが、皆々様もぜひお立寄りください。歴上からは歴史と伝統を誇る津高の校名が「元気で頑張れ」と叫んでいる姿が一望できる。その時いつしか歌を口ずさんでいる。いつまでもご壮健で。

森岡　和子（旧姓井上）

故郷三重とはちがい、海のない埼玉に居ります。

在職中は病気のため大変迷惑をお掛け致しました。

お蔭様で結婚してからはすっかり元気になりまして……と申し上げたいのですが、身体の方は、相変わらずからっきしのいくじなしです。

津高で育まれた私の青春を大切にあたためながら家事にあけくれております。

梨の花の咲く頃に一度お出かけ下さいませ。

皆々様くれぐれも御身体御大切に。

なお、都心から五十分の静かな所ですから、御子弟の受験その他お出かに御利用下さいませ。　すめても御恩返しと存じます。

母校の歴史 (8)

山本栄吉事件

真弓六一 (S17)

津中の巻

本校の前身は明治十一年十二月校名を津中学校として創設されたが、二十年三月には三重県尋常中学校、つづいて三十一年四月に三重県立第一中学校、三十四年五月に三重県立津中学校と改称され、いわゆる旧制期を終わった。

その間創設から明治三十年九月までの二十八年間に、初代校長が酒井良明、第二代・伊藤新一郎、第三代・津田純一、第四代・清水誠吾、第五代・山崎直臣、第六代・久田舊と大名の校長が就任したが、各校長在任期間が学校廃制がひき起され、その紛争が直接の原因となって校長が更迭した。

このように全国的に特有（けう）な学校状態も、三十年九月第七代校長に秋山正義が着任するとようやく治まったが、同校長は自身の不祥事による職責のため退任せざるを得なくなった。ついで三郎校長の着任となったが、これまた在任期間に学前の学校紛争が起こり、わずか一年足らずで退任し、三十五年一月、第九代・弘田正郎校長の就任となった。弘田校長の就任によってさしも学校紛争もひたりと終息し、以後十二年間の長期にわたって騒動の兆（きざし）さえ見られなかった。

以上のごとく本校明治時代は累次の学校騒動が起（しゃう）起したが、なかでも後年明治期の三大紛争と喧（けん）伝された酒井校長時代の山本栄吉事件、津田校長の四州学館事件、金田校長の校長失言事件の三つは、その規模の大きさ、事件内容の複雑、その影響の甚（じん）大において、本県の教育史上にもまたもちろん、近代日本教育史上にも注目される大問題となったのであった。

しかし、ここで留意しなければならないことは、従来これら学校紛争の三大問題を世間に流布された結果、事件の教育史的解明と考察がなされないまま、一方的見地で事件が語られ、あたかもそれが事件の全部であるかのごとく「公認」されていることである。

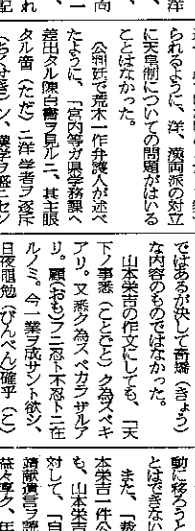
その例は前記諸事件中、とくに山本栄吉事件においてはなはだしく、いわゆる「不敬事件」という呼称で面白半分に語られ、事件の持つ重要な法制的内容とか、教育史的意義は研究されないまま放置られてきたのが実相であった。

慶応義塾大学法学部教授の手塚豊氏が、「明治十六年・津中学卒業生不敬罪事件の裁判記録」として発表の論文は、その論旨の法制的内容が厖（さい）利な観察にもとづき、史的事実の解明が深い見識によって進められている点、従来の紹介には見られなかった全く新しい研究として、斯（し）界の注目を集めたのであったが、この論文により識者にもあった興味的認識が除かれた意味において、その弊害除去の役割は十分以上のものがあった。私事にわたって恐縮ながら、氏の資料収集過程にささか関与した小生としては、これにより山本栄吉事件の法制的全容が正しく解明されたものとして、あらためて深い敬意を表する次第である。

さて、本稿では前記した累次の学校紛争を、本校の史的見地に立って順次解説する予定であるが、この回ではすでに周知の事実ながら山本栄吉事件をとり上げ、その教育史的意義を解明する。

明治十三年一月、本校の開校当時は官用民権運動高揚期で、その勝大郎、岩越重暢が教員として着任したために、洋学派教員の勢威は高まる一方であった。ちなみに当時全国的な中学校創設期に際し、その学校長に適任者が不足状態であった対策として、文部省では慶応義塾出身者を多く配置することとしたが、酒井校長もその例であって、加えて本校には同義塾出身の教員が多く派遣されたのであった。

反面、本校に対するこの措置はいわゆる漢学派教員と呼ばれた旧幕藩校時代の教育を身につけた宮内熊蔵、大木本弥、堀井純の三教員を強く刺激する結果となり、学校運営、教育方針について意見を異にするにいたった。



また、生徒は当然心情的にも洋学派教員にひかれ、政治、経済、法律、歴史といった科目を好み、修身、国語、漢学を軽視する傾向となったことは、漢学派教員に段々疎外感をいだかせていたが、たまたま明治十二年以降開催されていた県の教育会議会員に、前記の市川、岩越両教員が互選されたことは、洋学派に対する不平不満を決定的にし、事あらば一矢報いようとする、まさに一触即発の状態となっていた。

一方、県学務課の態度は、九年十二月の伊勢暴動が一応治まり、県庁の体制も明治政府が志向する殖産興業、富国強兵策に沿って行、財政が進められたことから、教育政策でも本校の教育について、洋学を尊重して西欧の学問をも早く学ばせ、より高度の学問を学ぶエリート養成を目指していた。しかし、反面高揚する自由民権運動の勢いに対処して、学校教育の本旨は、わが国の構成は天皇が絶対の権威であるとする国家観の基本としなければならないとしていた。

ところで、漢学派教員は当然のことながら、この天皇中心的倫理観は洋学派教員といえども県学務課の考え方に一致しており、その例は十三年七月の明治天皇本校ご臨幸に際し、酒井校長の格別な慰諭の結果、天皇の教室内ご臨幸が成就されたことはその具体的現われであって、校長自身動員的な考え方の人として自他ともに認められていた。

また、事件が告訴から公判の段階に移った過程においても、洋学派教員の教育は天皇制に批判的であるとか、生徒中に天皇を否定する考え方を持つ者があるなどとは述べられていないことからも察せられるように、洋、漢両派の対立に天皇制についての問題はいるとことはなかった。

（公判廷で弁護人二作弁護人が述べたように、「宮内等ガ県学務課ヘ差出タル陳情書ヲ見ルニ、其主眼タル箇（ただ）ニ洋学者ヲ逐斥（ちっせき）シ、漢学ヲ盛ニセント其策略二汲々タリシ処（ところ）、恰（あたか）モ好シ此祝宴ニ際シ被告ヲ招待ト称シ、無根ノコトヲ機会ニ以テ教育法（注・中学校の教育方針）ヲ改正セントスルニ過ギズ」とあるように、漢学派教員は日ごとに勢威のあがる洋学派教員に対し不快感を持ち、それに同調する生徒にまで反感憎を持ったというのが、当時の偽らぬ校内状勢であった。

では、このような状勢に生徒はどのように対応していたのであろうか。

さきにも述べたように西欧崇拝の関係から、すでにギゾーの「文明史」とか、フォーセットの「経済書」などの、当時きわめて漸（ざん）新な教書を、酒井校長始め洋学派教員から原書で教えられていた生徒らは、時勢の影響も強く作用して、当然フランス革命に深い関心を示し、それについて解説の書物、雑誌の類を求めるようになっていた。しかし、そのことが直ちにラジカルな行動に移行するというのではなく、大部分の生徒は原書で講義される自々の高度な授業理解に、四苦八苦するというのが実情であった。

それは事件をひき起こした山本栄吉を含む第一回卒業生の六名についても同様のことが言えるのであって、その例はさきの十三年七月ご臨幸に、全校生徒二千八名中次郎、山本栄吉、磯谷幸次郎、中矢四郎、服部金吾の五名が、天皇に自作文を差上げた際、その表題は服部金吾が「御巡幸文」、松尾佩次郎が「少年の声音ハ侍（たの）ム二足ラザル論」、山本栄吉が「剛毅忍耐ハ学生ニ欠クベカラザル論」、磯谷幸次郎が「補正成深川二戦死ノ図二題ス」、中矢四郎が「地方二中学ノ欠ク可カラザル説」という題であったことにも示されているように、天皇に提出するという特殊事情の文章ではあるが決して奇矯（きょう）な内容のものではなかった。

また、「裁判言渡書」とか「山本栄吉一件公判始末書」によって、山本栄吉被告は裁判官の問に対して、「自分十二、三歳ノ時、適獄遺言ヲ読ミテヨリ、勤王ノ志甚ダ厚ク、年来皇室等ニ対シ、不敬ノ所為アル者アレバ、同察ノ友人ト雖モ、必ズ弁駁シテ反省ヲ求シ報ノ事ナレバ、決ッテ知所不敬ノ言ヲ吐キタル事ナシ」と答えていることからも判断できるように、全身酔いの回った山本が、平素から好感を持っていなかった教員・宮内に対し、いわゆる「ダダ」を巻いてからみつき、感謝謝罪（もうろう）のうちに、「天皇万歳（しい）」セザレバ日本ノ文明進歩セズ」という、無座がきこの言葉を吐いたことからも判断できるように、酒に対する節度のない放言をしたものと考えられ、それは決して計画的に事を運んだ訳ではなく、山本が個人で主導権をもち、周密な準備のもとに事をひき起こしたものとは考えられない。

限られた残存史料しか無い今日では、当時の状況を詳細に誤りなく再現することは不可能であるが、漢学派教員による洋学派教員に対する「頭の進んだ」生徒の紹介された結果、いわゆる「頭の進んだ」生徒は、それらすでにうわさ話に聞み、知らず識らずのうちにそれら革新的思想を常識として持っていたことは事実であろう。この点についていえば、洋学派教員にある種の責任が皆無であったと断言はできないが、ことさら生徒を煽動したと考えることもできない。

反面、このような状況を嫌悪（けんお）する漢学派教員は、はからずも惹起した事件を好機として、洋学派教員の追い落しに躍命となり、その結果生徒に不敬罪という大きな犠牲を背負わせることになったものであり、不運にも山本栄吉がその犠牲者となったのが事件の本質的内容である。

事件は十五年十一月十二日、第一回卒業生の磯谷幸次郎ら六名が、津町（津市）分部町の開明楼（現・主婦の店雑貨部東裏口の位置）で卒業謝恩会を開いたことが発端である。この席上卒業生の一人である山本栄吉が、酒に酔って明治天皇に不敬の言葉を吐いたとされ、同会に出席の教員・宮内がこれを県学務課に通報したことから大きなった。

この事件に対して学務課は直接ご臨席あるお方針をとり、教員の栄田量徳用掛から告訴するという形をとった。

当時学務課の本校に対する態度は、さきにも述べたように本校設立に際しあるお方針をとり、教員の栄田量徳用掛から告訴するという形をとった。

当時学務課の本校に対する態度は、さきにも述べたように本校設立に際しあるお方針をとり、教員の栄田量徳用掛から告訴するという形をとった。

当時学務課の本校に対する態度は、さきにも述べたように本校設立に際しあるお方針をとり、教員の栄田量徳用掛から告訴するという形をとった。

このような事態に対し、学校当局では漢学派教員が中心となって生徒の説得につとめたが、生徒らは応じなかったため、同月二日、主謀者の六名に退校を命じたが、その結果生徒側を一層硬化させ同盟罷業の西来寺に再集合した生徒らに、退学届の受理を叫んで気勢をあげさせることにいたった。

このような事態に対し、学校当局は四十名という多数者に退校を命じたが、その退学届は四十名という多数者に退校を命じたが、その退学届は四十名という多数者に退校を命じたが、その退学届

お互に健康を喜び合う

松組五十周年記念クラス会

今村房（T12）

緑の美しい五月、二十七日、私ども松組の卒業五十周年記念のクラス会を、津市新町温泉会館で催しました。津市在住の松組の方々が一年も前からいろいろ計画いただいた甲斐があって、出席者も四十三名をかぞえ、盛大な会となりました。

いつまでも変らぬ、お元気な天西先生がご出席下さったので、会には一層の花が加わり、意気軒昂にありました。お招き申げました吉岡先生、奥村先生が何分遠方の事でご出席適えませず大変残念でした。クラスメートの井本さんが遠く岩国から、いつものように駆け参じられて、東京からは、岩部さん、前田さん、中村さんがこられ又いつものように特急すべりこみ、十一時半には殆ど全員が集合、こうしてお互に健康で卒業五十年を迎えた事を、先づ何より喜びあいました。お友達はいいもの、特に女学生時代のこの同級会ほどほんとに楽しいものでございます。先生をはじめ皆さんが各地から名乗をかなぐり捨ててお持ちいただき、舌づつみをうちながらのおしゃべりで時の移るのも忘れて五十年前に帰っての大はしゃぎ、寺島さん、桜井さんは衣裳を変えて日本舞踊、前川、磯部名取さんの松の緑など又井本さんの立派な衣装での仕舞その他皆さんのかくし芸が出ること、出ること、さすが長い年月のお仕込の結果と感嘆あいました記念撮影をカラーでいたしましたが、これ又出来上りが上々で、ご覧のように誰もが五十年前に近いほど美しく撮れました。今後これだけの人が顔を合せられることをひたすら念じて、ますます皆が体に気をつけて、この次のクラス会にも同じ顔を揃うことを約してお別れしました。尚この夜津会館に宿泊されて、二次会をされた方々もあったと伺います。

尚、亡くなられた方々のために、六月初旬、有志の者数名が津市半田高西寺で法要をいとなみ、慰霊祭をさせていただきましたことを併せて報告いたします。

来年は四日市で開催の予定でございます。その日を楽しみにしております。

精神的に豊かだった青春

S19入学の同級会

杉浦茂夫（S24）

昭和十九年に津中学あるいは津高女に入学した我々の学生は、二年生で終戦を迎え、学生故郷により男女共学となり、学区制の施行に伴って雑合集散、中学校の資格だけで学校を去る人もあり、四修で上級学校に進む者、新制高校、編入される者もありで、終戦後の混乱期に中学高校時代を過ごしたのであった。物質的にはそしかったが精神的にはのびのびとした多の時期に青春を共にした仲間が集って、来し方をふり返り楽しい時を過ごしたいという気持ちは、不惑の年令を過ぎた現在、益々強くなり東京、名古屋、京阪神の各地で毎年会合が持たれている。地元でも開催されてきているが、数年前から男女合併で行うことになり、毎年だいたい八月に開催されてきている。本年度も八月十五日の午後、同級生鯉江盈君経営の「ハグ ボタン」で開催された。タンクローリこと井村正一先生と冨永宗先生のご出席を賜わり、地元はもとより名古屋や京阪神より、さらに東京や広島からと男子四十一名、女子二十一名が出席するという盛況であった。両先生のお元気そうなお言葉に続いて岡村先輩より「今後は同窓会全体の中核となって活躍せよ」とのご挨拶があり、校歌斉唱、記念撮影の後、各自の近況報告に移った。頭髪の薄くなった人、太って貫禄がついた人、はじめは誰が判らなかった人も、自己紹介が進むにつれて、若い頃の顔と重なり合ってきて、いつしか学生時代に帰り、歓談に時の経つのも忘れるほどであった。懐しさのあまり別れ難い諸君は、二次会でこれまた同級生東海成子氏経営の料亭「平治」へ席を移し、心ゆくまで語り合ったのであった。さらに名残りを惜しむ十名の諸君は三次会まで開催し、来年の再会を約して楽しい会合を終えたのであった。現、原上、今後益々同級会を発展させ、より多くの級友諸君の集まるよう次の二点が了承されたので、この紙面をお借りして、全級友諸君にご報告を申し上げたい。

(1)同級会の会合は、同窓会総会に合わせて、原則として八月第一日曜日の午後開催することとし、特別の事情がない限り、「ハグ ボタン」を第一次会の会場とする。

(2)幹事は、今までの持ち廻り制を廃し、次の八氏に委嘱する。

（五十音順）

（男）青山弘、杉浦茂夫、永倉万丁、真柄岡忠

（女）木村すみ子、東海成子、藤堂早子、吉川はるみ

猶、男の幹事は、青山が司会、杉浦が名簿整理と文書発送、永倉と真柄が会計を分担することになっていますので、用件の性質に応じて各幹事宛ご連絡下さい。

「昭九会」の集い

中井貞子（S14）

渇の山は紅葉とよなし招き状昭九会（陳川S14・15三重県S14の有志会）を、今年は是非三重での希望に、三重交通取締役の田中大三様のご配慮で秋も酣の十一月十日、三重交通鳥の山保養所で開かれることになりました。

男性十二人、女性七人の出席者は、東京、横浜から、名古屋から京都、大阪、神戸、そして和歌山上野と定刻一時間後の午後五時には、一、二名を除いて参集いたしました。

なつかしき顔まじまじと菊の宴　また空も海も汚れていない昭和三年から九年まで、六年間二つ学び舎で親しみ学んだ私達は、たがいなつかしさ一杯、次から次へと話に花が咲きました。男性十二人の方々は、このたびの田中大三さん。母校津高校の教諭野口章さん。そして東京から梁田利さん、斎藤竹生さん、浅尾義彦さん、吉川光行さん、平松高義さんと東京での昭九会の際お世話下さいました方々です。

名古屋から竹井恒一さん、大阪から小柴孝一さん、県内では柏上学さん、大矢吉男さんです。

小学校のことから各学校のこと、それこそ何から何までまとめて面倒をみていただいています徳田孝子さん。（津高同窓会幹事幹事）こんなにお世話下さる方も珍らしく、他の学年の人が「貴女達は幸せだ」と羨ましいと仰っって下さいます。この日も少しお加減がお悪かったのを、無理を押しておねがいして、出席していただいた次第です。

年中左の胸に赤い組章（幾長・副幾長は梅の形に結んだ赤い紐をつけ）を付けておられた別所春吉のお嬢さん星野不二子さん。関東勢を代表して横浜から出席していただきました。

水泳選手として活躍されたり、時にはピアノ、お琴も弾かれる和多田（金田）多枝子さんは京都から。

「なる子さん」名前のとおり鈴を振るような美しいお声の岩田（斉藤）愛子さん。「ノスキーの歌」を市内各校代表選手として競われた十年前の思い出が蘇ります。

西の宮からお越しいただきました。

文学少女だった立林（鹿野）周子さんは常にムード一杯で、公園からの遊歩道に花をつつみなんて素晴しいではありませんか。和歌山橋本市から八時前駆けつけて下さいました。

物事をすべて真面目に考へ行動をいつも守っておられる谷口（小川）美穂さんは伊賀上野から来ていただきました。

旧交を酒にしるため秋夜長　山の幸もすすめたいために、お酒もくみほどに濃厚な学校での思い出が繰り返されました。私達の学校は高山祖父の西側にあり城址の濠端には桜の樹が植わっていて、濠の水も清らかで鮒の子なんかが泳いでいました。花咲く春先、松原先生の情操教育もさることながら環境的好立場所だけに四季の移り変わりも美わしく、この風物は私達幼い者の心を豊かに育くんでくれました。花吹雪のなかを舞々として戯れたことも、お濠の蓮の花の満発なことも、銀杏の鮮やかな黄金色も忘れることが出来ません。忘れることの出来ない一つは、年に一度の虫干しの海人草を乾す時、これが大変。大きな笊で海草を直い、お腹の空いた時食べてやすが、ひと思いに飲み込んでしまうのです。

小春日和に十九の顔がさるのチーズ（吉川光行さんの句）

朝食後帰上で記念写真を撮った後、御在所丘へ行かれる人や、近くの紅葉を愛でられる組、まだまだ話したりないのか部屋で話し込む女性群、それぞれに楽しんで、最後の鈴木さん、星野さん、谷口さん、私の四人が山を下りたのは、丁度正午でした。

保養所は私達明け方の音だけで本当に心おきなく楽しませていただいて、田中さんには感謝します。

お鮮やかなお部屋で話し込むお嬢さんたちの中に、嫌々ながら参加した私は、ちょっぴりちびり。そういえば水泳の時の酔いもあまり美味しいものではなかったじゃないか誰かが言えば、今の子は酔いなんて知っているかしらと大笑いでした。

お鮮やかなものを、嫌々ながら参加した私は、ちょっぴりちびり。そういえば水泳の時の酔いもあまり美味しいものではなかったじゃないか誰かが言えば、今の子は酔いなんて知っているかしらと大笑いでした。

いの人が、「幼稚園のクラス会ですか」とお尋ねられ、気がついてみると、当時入園幼稚園で二年間一緒だった、斎藤竹生さん、星野不二子さん、田所桂さん、谷口美穂さんと私。朝夕くぐった入徳門は現在御城跡公園の中の日本庭園内にたてられています。この日本庭園に至る門は広くて入り易く、徳に至る門は狭くて入り難いと昔から言われています。私は入徳の門の前に立つ度に、これの行動が深く反省されます。お話になった稲垣先生、鈴木先生が思い出されて、「智慧は浅く、心は純に」と教えて下さった方は、今どうして居られるかしらとしんみりいたしました。

ミラク幼稚園でご一緒だったにいう野口章さん、田中大三さん、吉江光行さん、和多田多枝子さん、平林周子さん。狭い街だから何年間も一緒の友達がいて幸せですねということになりました。

友達の寒つきをぬる秋の夜　一人一人の近況報告を終りに近づいた八時頃、橋本市から平林周子さんが一段と若い姿で「遅れてごめんごめん」と顔を出されました。

婦人科医の梁田利さん。魅の不調をそっとうかがったり、新薬希望の人は斎藤竹生さんに設計のことをたづねたり、嫁り姉とり等の世間話もつきないうちに、夜も更けてきましたので、各々の寝室に別れをあげました。

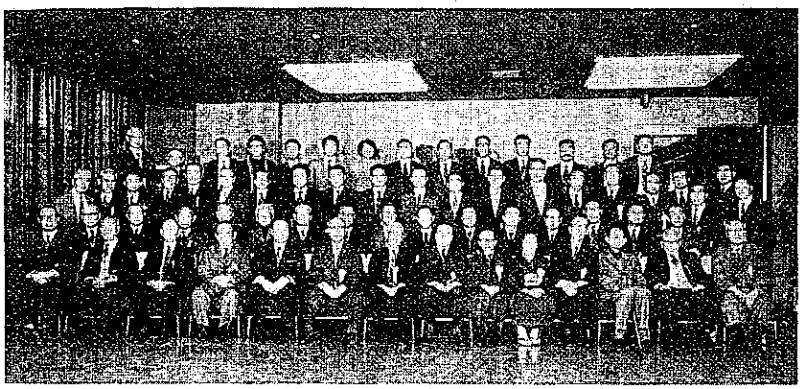
寝室は、女性は二部屋を予定されていましたが、七人一部屋にとお願いして、その夜は修学旅行気分で楽しい眠りにつきました。

朝、ご存知の通り、天西先生の顔がさえないのは、二日酔いのためでしょうか。

写真を撮った後、御在所丘へ行かれる人や、近くの紅葉を愛でられる組、まだまだ話したりないのか部屋で話し込む女性群、それぞれに楽しんで、最後の鈴木さん、星野さん、谷口さん、私の四人が山を下りたのは、丁度正午でした。

保養所は私達明け方の音だけで本当に心おきなく楽しませていただいて、田中さんには感謝します。

お鮮やかなお部屋で話し込むお嬢さんたちの中に



タイムトンネルで
学生時代に逆戻り
第七回津高大阪同窓会総会

大阪津高同窓会も第七回を迎え去る一月十八日、恒例の阪神百貨店グリーンルームで、四十八年度の総会を開催しました。本部より大藪会長、阿部、竹島両副会長母校より三ツ村教頭先生、野口先生そして、旧部山田、岩永、四田、土保、藤原の諸先生と多数の来賓のご出席を得、参加会員も百名を遥かにこえる盛大さでした。例年の記念写真も、会員一同に撮影したのでは、小さな顔見せがつかないとの声が出て、男女二組に分けて撮影するという幹事の方のご苦労を煩わすことに致しました。

野崎幹事長（T10卒）の経過報告、野田会長（M32卒）の挨拶、大藪会長の祝辞と部練過報告に引続き、三ツ村先生から、母校の活潑な活動状況の説明に接し、一入誇りを感じた次第でした。

懇親会は、かつて野球部が甲子園出場を果した時の主将近藤君（S39卒）のユーモアに富んだ司会により、和やかに進められ、ビールの空壜が並ぶにつれて、一同を恰もタイムトンネルの学生時代に逆戻りさせたようで、諸先生方の懐しい言話に、談笑する諸氏の中に紅顔の少年、少女の面影が彷彿と浮び出る感ひさえしました。津中校歌の響声が響き渡った後竹島先生を中心にしての三唱となる頃、かすが一の美声に引続いて元応援団長の場内を圧する名音頭により、若い卒業生の津高校歌合唱が、会の雰囲気を一段と盛り上げてくれました。

時を忘れての歌や談笑に楽しい一時を過しましたが、一時半過ぎ野田会長の発声で万歳を三唱し、来秋十一月十九日の再会を約して散会しました。

今回も多数の若い卒業生の出席を得、会が華やいたことは、大変喜ばしいことでありました。しかし、まだ出席者の卒業年代に偏りがあるように思われます。各卒業年次のクラス会だけではなく、縦の繋がりとしての同窓会にも、積極的に参加していただきたいと希望しております。亦、毎年総会には、遠路を出席戴いた竹島先生逝去の訃報に接しましたが、総会当日、近鉄難波駅でお見送りしたのが最後になってしまいました。哀心より先生のご冥福をお祈り申し上げる次第です。（水谷次男記）

竹島先生急逝さる

竹島先生を偲んで
今村　房（T12）

竹島先生、あんなにお元気だった先生が、こんなに急におしてなりになるとは全く夢のようでございます。私にも三重桜同窓生は母を失ったような悲しみでただ茫然としております。

二、三日前に電話でお話をしましたときいつもと変らないお元気な声でした。又その前、十月六日の同窓会役員会でもお元気で御出席になられました。今思うとあの時が先生とのお別れになってしまいました。

先生は同窓会のお仕事は、お若い時分からおしてなりになる最後の最後まで、ご自分を忘れて没頭されていました。従って何もかも先生にお頼りきってきた私どもは、今全く中心を失って途方にくれております。

私は学生時代は分論のこと、教壇に立ってからも、先生のおそばでお世話になり通しでした。前後ともお世話になったわけです。

先生の頃、寄宿舎で厳々苦労をかけ、今度は共に同窓生として指導を受けたのです。三重桜の校風そのまま、まじめな、飾らない先生でした。同窓会のお仕事を、時折お手伝いしてまいりましたが、それにつけても、卒業生一人一人の名前をよく覚えていらっしゃるのには、全く感嘆いたしました。私にはとても及ばないことです。

昨年頃からかがしつつお弱りになって驚愕なりのはのがお苦しそうで、お案じしておりましたが、やはり心臓が衰えていらしたのでしょうか。もう少し皆ともも気をつけておけすればよかったのに、と悔まれてなりません。何のお世話も出来ずに、先生逝ってしまわれました。納棺に接し、同お眉りをして、最後まで笑顔でいらした先生とお別れをいたしましたが、先生をおしたいする方々で一ぱいでした。先生のお好きった花花一杯にかこまれて、いよいよ最後のお別れには、燒香までお供した私ども数名が、三重桜歌を唱って先生を送り申しました。

今後は先生のお残し下さいましたこの三重桜同窓会を、私ども一同、先生について及ばずながら、一生懸命守りたてたいと思います。そうして先生のご恩に、少しでもお報い出来ればと思います。

昭和四十八年度の津高東京同窓会年次総会が、このほど（12月8日）平河町の全共連ビル内都市センター・ホテル別館グリルで開かれ、五〇名が参加して旧交を温めるなごやかな一刻を楽しんだ。

総会は北川登事務局次長（千葉県松戸市常盤7の5の11）の司会ですすめられ、まず生悦住求馬会長（元千葉県知事・世田谷区池尻4の29の25）が「今日十月八日は第一次大戦が始まった日。おりしもアラビアの石油問題が起こっていさかまうつな毎日だが、章心に返り昔の学び舎を思い出して楽しい会にして頂きたい。私は久居から五年間、津中に通ったが、最近帰郷したとき、青山高原が非常に開発されていたのに驚いた。ふるさとは急激に変わりつつある感を深くした。皆さんも同様と思う。ともあれ本日は、同窓相寄って久しぶりに歓をつくしてしまい」とあいさつした。

＜伊勢新聞より転載＞

なごやかに懐旧談
津高東京同窓会年次総会

ついで母校津高からお祝いにかけつけた三ツ村健吉教頭が立って「ただいま母校は男女共学で一七五一名の生徒がいる。これは年配の方には苦の感があると思う。だが、皆さんの培った校風はいまに生かされ、真のいい生徒が集って、県の代表校としての面目を保っている。毎年東京の学校には百数十名が入るが、本日若い人の姿がまだまだ見たいのは寂寞。新しい事業では来春から学校制度（四日市、津、伊勢）がしかれ、もう一つ津に高校ができるので、一校で一つの群を作り、質を均一にして良きライバルとして新設校を育てゆく方針」とあいさつした。

このあと、大藪次期同窓会長の近況報告などがあって総会を終了、懇親会に移って午後四時過ぎ散会した。

津高艇友会発足とその足どり

一昨年三・四月より旧津中、津高の漕艇部のOB会を結成し旧交を温め、広く親睦を図ろうとの目的で呼びかけました処、一昨年八月の第一回総会には約六〇名の会員が集り会員としてOB現役の ボートレース等も行い、大へん楽しく一日を過して頂きました。昨年はインターハイの関係で七月中に行われ、今年又八月中に総会及びレクリエーションを行う予定です。（会員は現在二百数十名ですが、少しの間でも顔をおかれた方々にも入って頂けば倍近くなる筈です）会員に一般の方でも入って頂きエンジョイしてお待ちしています。

会の名称　津高艇友会
会長　橋本誠太郎
副会長　竹林　昇　加藤英郎
総務会員　富田一成　吉川昭一
顧問　津高校長　小竹　惟
津高漕艇部々長田中典夫

三重桜総会
小学生の旅行気分
竹島先生御記録より

四月二十二日例年のように、三重桜部の総会を、鳥羽市安楽島市の簡易保険保養センターで開いた。前日までの出席申込数は百四十二名であったが、この日前日からの雨がまだやまず、欠席が多く出るのではないかと心配せられた程の盛鳥羽駅前に集ったのは半分ぢったり、特約の二台のバスに分乗、会場に向った。車内では久し振りの対面に話がはずみ、既に同窓会は始まっている。バスの車掌が「ご年輩の方達ですが十度小学生の旅行の車内のようです」と放言していた。

島々の山の上には洋風建のホテルが、いくつも見える。それを眺めながら海面を埋立てたテニスコート十余、会場についた。

会場は大広間を当てられたが、この夏の高校総体になぞえて塩漬が行われており、寄外の好景は見られなかったが、その不満は、あの人、この人のおしゃべりに、カバーされて皆歓をつくしていた。

竹島先生御香典

三重桜	三千九万一千円
津高	八万六千円
計	四十七万七千円

百五銀行の所金通帳にして先生のお妹様竹島さる様に差上げましたのでご報告いたします。

紙人形の工作を楽しむ
津高京都同窓会総会

京都部では新年の懇親会と秋に総会を開くのを例としているが昭和四十八年の新年懇親会は役員の皆さんのご尽力により、一月二十八日、郡部を避けて幽玄な、しかも清涼な東山の山麓の由緒深い三月院で開きました。山水画に見るような古本庭園を背に臨む懇親会は京都らしさの雰囲気の中で集った会員男子九名、女子十八名、半年振りの会合で、話がはずむ、中でも三重桜明治四〇年卒の八十三歳を迎えられた高脇恵さんの長い人生の生き方の話に、会場は一入、静寂さが加わった。

十一時閉会、閉会の辞に次いで部会長の挨拶、来賓津高同窓会副会長阿部哲夫氏のお祝いのことは、恩師長嶺さん、伊達源子両先生からのお祝があり一手による鏡一の校歌を合唱したり「心の旅」を唱和したりして中食。三時半まで自由行動をとり、また往のバスに乗りこんで鳥羽駅に帰着解散をした。雨はすっかりあがっていた。

なお、保養センターの食堂を経営していられるのが昭和二十年本部（四年制）伊藤昌子（日生第四）さんのご主人であったので、大変便宜を計って頂け幸せであった。

津高東京同窓会に招かれて
今村　房

去る十二月八日、津高東京同窓会からお招きを受けて京へ上がりました。兄夫妻も同窓生ですので東京駅まで迎えてもらって、会場ビルでの会合に出席いたしました。

津中側の先輩の方々が、早くから到着されていて、私が旧中之系の娘だと聞かれて「ご主人の娘さん」ということになりました。女学校側も年末で三期の忙しい時期でしたが、多数の集合があり、皆さん顔見知りで楽しい語らいをいたしました。当津高にも在職しておりましたので、在京の若い方々にお会い出来るかと期待していました。

なお、保養センターの食堂を経営していられるのが昭和二十年本部（四年制）伊藤昌子（日生第四）さんのご主人であったので、大変便宜を計って頂け幸せであった。

懇親会長の挨拶並に母校、同窓会の近況報告があり、懇親会に入って三重桜の山本昌子さん（昭和二五年卒）の民謡の披露があり、隣川の藤田由男氏（大正二三年卒）の健康管理等のお話、最後に三重桜の三原節子さん（昭和一五年卒）の紙人形の工作の指導があり秋の午後を愉快に過した。

大藪会長からの指摘された通り京都の同窓会は男子の出席者が少いので男子会員の一層ふるってのご出席を願いたい。又出席されない方々は大体同じであるのも気がかりである。役員一同一層努力して出席の勧誘をしたいと思っています。会員の皆さんのご協力をお願いしたい。

役員改選期に当り次の通り選出されました。

顧問　鄭八重子（大九）
会長　柳瀬兼助（大二四）
副会長　中山　保（昭一）
副会長　笠原みさを（大一五）

竹島先生もお迎えして
三重桜東京部会

五月二十八日、東京上野公園内韻松亭で開催致しました。

今回は、遠路はるばる岡山より高畑先生、津より竹島先生、岩永先生をお迎え致しまして、又、近くからは、久世先生、近田先生のご出席を得まして、この先生方をお慕いする会員多数の出席があり当初の予想を上回る出席の通知に、会場がはち切れるのではないかと当番は嬉しい心配をする始末でしたが、不忍池畔、古い歴史の韻松亭の日本間に、どうやら無事に、百十名の者が納まりました。

八十六歳の高畑先生、七十九歳の竹島先生、古稀を迎えられるという岩永先生、揃って元気で、いつに変らぬ頭脳の冴えを賛美、唯々敬服申し上げました。会員も大正一年から昭和二十三年までと幅広い層にわたり、いずれも和気藹々と談笑に結ばれて、心楽しい初夏の半日を過すことが出来ました。

昔懐しく（？）今は故郷の先生方の前に坐りますと、私共の心はいつしか、何十年の歳月を飛び越えて、なつかしい柳山時代に返ったようでございました。

師とあれば若い少女と薔薇可ふ三重桜の老大樹についまでも美しい花を咲かせたいと願いつつ、東京の部会は健在でございますことをお知らせして筆をおくことに致します。

天野清子記（S3）

事務局だより

▼事務局員の近藤道子さん（三重桜S20）が家庭の都合で退職され、同級生の長谷川順子さんが充てされました。

▼前号物故者中、倉田ます様（三重桜M36）を入れてしまいましたが、お元気の由ホッカリをいただきました。深くおわびして訂正させていただきます。

▼今回は字定以上に原稿をよせていただき誠に嬉しい悲鳴をあげました。紙面の都合で主稿の一部カットをさせていただいた方があります。お許しください。

▼新しい名簿の発刊を求める声をしばしば聞きます。年度、クラス、地区、寮、通学別などの同窓会の幹事諸氏にお願い、その時の名簿をご寄贈ください。

編集　津高同窓会々報編集委員会
発行　津高同窓会事務局

―オーストラリアへの旅―

恵まれた自然と人工の美

堀　万作（S11）

昨年十月約二日間にわたって大阪三蓑会のオーストラリア蓑祭視察団の一員に参加を許され、近年特に我が国と政治、経済上の関係が深くなったオーストラリアの実状を、自分の目で見る機会を得たので見聞したままお知らせする。

〈オーストラリアへの旅〉

オーストラリア最初の訪問地、パース（西オーストラリア州の州都）への道は遠かった。空路を利用する時代とはなったが、日本から最も南の国、オーストラリアは遠い国であった。しかし、秋の日本を立った我々を迎えられたオーストラリアは、日本と丁度反対の春の半ばの気候で、あちこちの花が咲き乱れ、まことに美しい季節であった。

真夜中ジャカルタから十月二日未明に着いたパースの夜明けは、すがすがしく広大なオーストラリアを訪れる我々の第一歩は、さわやかであった。

〈国土・人口・資源〉

オーストラリアは、日本の国土の約二三倍、八〇六万平方キロの広さがあるが、人口は約一、三〇〇万余、東京都と同じ程度アングロサクソン系が約八〇％、残余はヨーロッパからの移民で構成されている。

オーストラリア大陸は、周囲の海岸線に近い部分を除いて未開拓の地が多く、特に中央部は砂漠となっている。この広大な土地に僅かの人口では、依然として資源主義がとられている国内の現状から、労働力不足は考えない。殊ンド至ての天然資源を持つ国家は、これからの世界経済に於て持つ国の強さを発揮すると思うが、国内での資源を工業化するには第一に、人手・労働力が不足している。

豊富な資源の一例として我々一行が見学した、マウント・ニューマン・マイニング社の鉄鉱石の採掘現場は露天掘りで、推定埋蔵量一五〇億トン余と称され、展望し得る全てが鉄の山という感じで、採掘現場でクラッシャーにかけられた鉄鉱石が、延々一四〇〇粁の貨車に積み込まれ、一日九編成で四二六粁離れた、ポート・ヘドランドへ運ばれている。また、鉄鉱石の精度五四％以上はウェイストとして、現在は労働力、コストの面から捨てられ、精度五五％以上が日本、英国、その他に輸出されている。現在日本へ輸入される鉄鉱石の半分以上が、同国からのものである。

最近西オーストラリア州は天然資源に恵まれ活況を集めているが豊富な天然ガスを原料とし、豪州連邦政府と西豪州政府がタイアップしたピルバラ地区の工業化の大プロジェクトは巨大なもので、我が国からの資本参加も計画中と聞いている。

〈都市〉

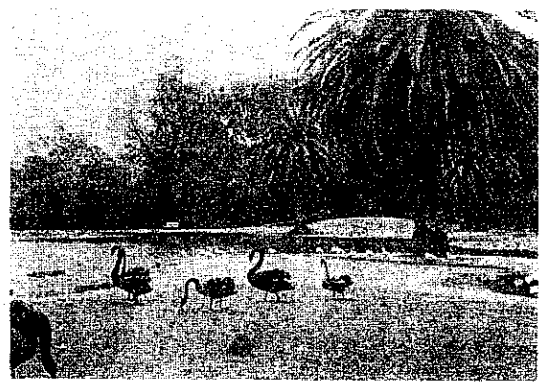
オーストラリアは、美しく雄大であった。一般にオーストラリアの都市の周囲には、何れも広大な公園があり、恵まれた自然と人工の美とが調和して、オーストラリアの都市美を形成している。各都市も建設当初から、広大、綿密な計画の下に街づくりが順次行なわれ、現在の繁栄に発展しても公害もない、緑豊かな都市であり、市民は日々の生活に満足し、幸福な日々を過ごしている。歴史が新しく、人口も少ないので労働条件、待遇もよく貧富の差も余りみられない。

州都・パースは、日光のまちと称され西オーストラリア州の資源を中心とした、発展途上の活力溢れる都市であり、人口約七〇万、温かい方、暖るものもない印度洋に沈む夕陽は雄大でその美しさは忘れられない。

サウスオーストラリア州々都・アデレイドは人口約七十六万、祭の市と言われ、一年に一回芸術祭がもたれ、緑豊かな一マイル四方の都市の東西南北に公園があり、その周囲が郊外になっている。日本の都市と比較にならない緑の豊かさに感激すると共に、我が国の場合強制された緑は大切にしなければならないと痛感する。緑の豊富な国であるが、より以上に緑を保つため個人の庭の芝生にも、十分な維持費用が要求されており、かオーストラリアの都市は何れも街路が広く密集で、緑豊の吸いが等は見られない。

十月十二日夕刻、アデレイドを立ちシドニーに向かう。オーストラリア人口の半分がシドニー港へ移住しているとのことで、エリザベス女王の来訪が伝えられ歓迎一色に彩られていた。シドニーは活潑設備も整備し、商業の中心として発展を続けている。

ビクトリア州々都・メルボルンは人口三〇万、金融・政治の中心でシドニーより五〇年ほど新しいが、新旧の調和とれた落ち着いた都市で、公園都と呼ばれている。面半球最大の規模と種類の豊富さを誇るロイヤル植物園が市内にある。



メルボルン、ロイヤル植物園

ネイロと共に世界三美港の一つに数えられ、自然の入江に造成された人口約一八〇万の密半球での美しい大都会である。偶々、十四年前に第十回を成功した、オペラハウスの結落としが行なわれるとのことで、エリザベス女王の来訪が伝えられ歓迎一色に彩られていた。シドニーは活潑設備も整備し、商業の中心として発展を続けている。

ビクトリア州々都・メルボルンは人口三〇万、金融・政治の中心でシドニーより五〇年ほど新しいが、新旧の調和とれた落ち着いた都市で、公園都と呼ばれている。面半球最大の規模と種類の豊富さを誇るロイヤル植物園が市内にある。

キャンベラは、オーストラリアが一九一一年に首都として独立宣言し、一九八〇年完成を目標にしている建設中の都市で、人口約一六万。広大な地域に十地造成建設技術の粋を駆使し、十年間遂は人口五十六万程度の都市であったが現在は政府関係と大学の建物が林立している。キャンベラの小高い丘の上には戦争記念館があり、第一、第二次大戦の戦士の記念品等が陳列され、日本兵士の千人針、国旗等にも当時の苦難が偲ばれる。当館の前に第二次大戦当初シドニー湾内に突入した日本の特殊潜航艇が陳列されているが、過去の日本がおかれた孤立の立場を想起すると共に、最近ではオーストラリア人もあの程度の装備でよく迄来た日本人の勇敢さに敬意を称えていると聞いた。

〈国内情勢と日本の関係〉

オーストラリアは完全雇用の国で労働条件もよく、賃金にも恵まれ、物価は世界的インフレの影響を受け上昇して居り、生活は安定している。同国が各国経済に於て重要な役割を果たすようになるのは当然であり、特にアジア地域に於ける資源供給国として、我が国に対する経済上の関係は緊密の度を加えることであろう。また、政治的にもオーストラリア自体もアジア地域の国として成長することが望まれるので、日本、中国、インドネシア等との接触は増大するものと思う。現在資源はあるが、水・人・金が無いと言われている。国土の三分の二が砂漠のオーストラリアにとって、開発が遅れているのは水不足であり、人口が一、三〇〇万程度であるから第二次産業が発展しない。豊かな天然資源を利用、増大する労働力が不足している。また個人的には豊裕であっても、国全体としての資本蓄積がない。この三点が指摘されている。

一昨年末一月三年振りに、保守党からウィットラム首相の率いる労働党政権に移ってから約一年、民族主義の台頭が明らかになって来た。昨年十月末東京で開かれた第一回日豪閣僚委員会では、ウィットラム首相が労働党政権の首班として就任以来断行にはされて来た政策が、集約され資源に対する五原則が明確にされた。豪州側の資源に対する日本の投資に、現段階ではあくまでもオーストラリア国内の最優先が第一条件となっている。資源のない我が国としては、あくまでも資源確保が前提条件になって来る。従って、今後我が国とオーストラリアとの交渉は相当な時間をかけて良期的に信頼すべき先方と話し合う気構えがなければならない。

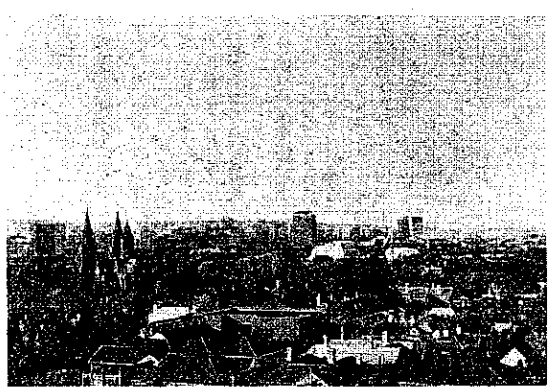
現在日本は、激しいインフレと資源不足の大きな風雨にさらされている。オーストラリアにとって日本は最大の貿易相手国であり、貿易収支の不均衡が強調されている。

総輸出額の三〇％は日本向けであり、また、日本にとってもオーストラリアは米国に次いで第三位の地位にある。我が国の資源不足がそこで私は、私なりの自己管理を徹底実行し来り、前述の好結果を得ているので、設備の趣旨に添う、私の名付ける「五戒五則」を忠実に実践し、人間の所謂「五戒五則」に補足したものですから、大方諸賢の叱正をこいたいとするものです。

高本論に先立ち、今一つ前提者に言わねばならぬことは、本態性高血圧症、遺伝性高血圧症の九〇％を含むこの難治が、

(一)　心の持ち方

そもそも、人体というものは、不節制をすれば、存外に長持ちしないものであるが、寛容度耐久節制をすれば、存外に長持ちして、殺伐の神のありがたさを実感したことが一つ。も一つ痛感したことは、今問題の本態性高血圧症の真の原因は明らかにされておらず、従って該病根治の決め手が未発見されていない上に、主治医多忙に追われて、施療上遺いのところに手の届かぬ憾みがあり自然、患者は自身で己れに適する養生法を積極的に推進せねばならぬという事実を否定出来ないことです。



アデレイドの街

藤田氏「私の五戒五則」に寄せて

井谷幹一

私たちが人を評して、「年より若い」とか、「老けている」とかいう時、なにを根拠として言うのであろうか。沢山あげられるだろうが、姿勢、声音、眼光は欠かせぬ要素と思われる。

筆者、藤田さんは、この三つとも抜群な"張り"がある。小ぶりとかなりな、筋肉の発達した体を、しゃっきりぱっと、視線をピタと据えて、明晰な構音で、よどみなく喋られるのを聞いていると、古稀の齢を感じさせない。文字通り年より若いのである。

こんど、恵贈をうけた二文"五戒五則"を通読して、上にあげた外見の張りが、実は強固な内面の張りに支えられているのを知りたいへん感銘をうけた。

薄味に調理した清潔の食物を充分噛んで食べ、一日に一時間を歩き良く眠り、温顔微笑をモットーとして人に接する、ということは、中年以後の養生訓として参考とするところがある。

ひとつ、ひとつは平凡な原理なさて、五戒とは、(一)快動(二)快食(三)快眠(四)快便(五)快心の五つの要項を指すのです。快食、快眠、快便の三つは誰でも知られている事柄ですが、快動、快心の二つは、私が勝手に補足したものですから若干の説明を要するでしょう。

「快動」とは続けて学の如く、爽快な運動という意味ですが、単に運動といっても、ゴルフや水泳のような、それなりの効果期待されても、高血圧者にとって、過激に陥り易いものはこれを除外し、例えば乾布摩擦とかラジオ体操、散歩等の軽い運動に限定されます。なおまた、快適な入浴即ち快浴も快動の範疇に入れて重視しているのです。それはスルイ湯（三九度～四〇度）にゆ、長目に浸って血圧を下げ爽快感を味わうべきものを、逆に熱い湯に長時間入って亜然としている人が多いので、警告したいからです。

「快神」とは、爽快な精神、「いい気持」という心の状態ですが、これは、人間誰でも、快適な環境に置かれ、不満足感のない状態を保つ為に、

(一)　やわらかな物も、三七度煮め溶解するまでもなく、咀嚼の必要を必要に力説した、曾ての小学校読本中の文章です。

かの有名な米国のプレッチャーの説いた「プレッチャリズム」の話とともに、我々もの絶体に守らねばならぬ保健の安寧であり、

(二)　一個の林檎、一時の歩行

"One apple a day keep doctor away."
"Two miles a day keep doctor away."

右の二つの地訳ですが、私は厳守しております。

(三)　腹八分目に咬まず

高血圧者は、飲食品の選択もさることながら、食べ過ぎぬようにすることが絶対要、教えられます。そこで私は主食（特に米その他の澱粉類）を極力制限し、副食物も薄味に料理し、軟食せぬよう心掛け、蒸煮料理はまれつき好物の甘い物も出来る限り敬遠して代りに果物を多く摂って、標準体重の維持に心掛けております。

(四)　窓硝・太陽・水・バナナ

これは、曾てのバナナの宣伝標語になった秀句ですが、私がこれを五則の一に挙げたのは、バナナを高血圧患者の主食の代用食にもなる強壮として高く評価しているからです。

脱脂牛乳、豆類（アゲ、豆腐等）甘藍、とうもろこし、酢のもの等と共に、バナナはレモンみかんに次ぐ大切なもので、特に旅行には欠かせぬものです。

公害のため、汚濁された空気、大喝、水の三者を正しく取り入れる努力が極めて重要となって来ましたが、個人の力及ばぬ天然の物ばかりに、我共の対応策にも自ら限界があることを感ずるとします。

(五)　温厚愛情の生活

森羅万象を言うこの語句は敢て説明を要しますまい。老境に入ると特にこの心構えを以て日常の活動を維持することが大切と敬えられます。私は深呼吸を加味した座禅の効験を聞かされ前掲「快神」の境地に導かれて自ら温厚となり愛語の出づる日々是好日の気がする昨今です。（終）

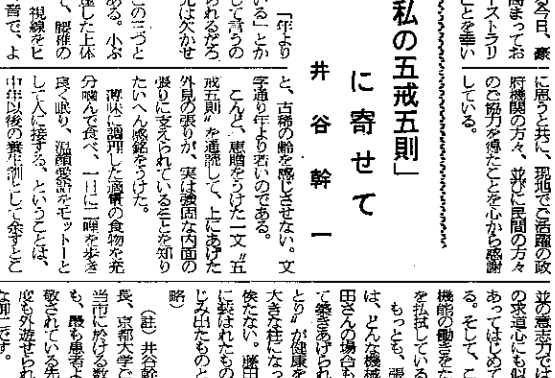
（飲食の摂り方
（医薬の用い方
（運動の仕方
（感覚、眼鏡の択び方
（物理療法の検査
等多岐にわたるため、これの適応に遺漏のない養法を実施しその綜合の成果を期待せねばならぬという事柄の多さであるという事実です。

従ってこれを完璧を期することは、一種の芸術といっても過言ではないが、併し同時にまた決して不可能事ではないということです。

私の健康法

私の五戒五則

藤田忠男（T13）



義理を入れてより私は特に恒温実行に努めております。

(二)　一個の林檎、一時の歩行

"One apple a day keep doctor away."
"Two miles a day keep doctor away."

右の二つの地訳ですが、私は厳守しております。

(三)　腹八分目に咬まず

高血圧者は、飲食品の選択もさることながら、食べ過ぎぬようにすることが絶対要、教えられます。そこで私は主食（特に米その他の澱粉類）を極力制限し、副食物も薄味に料理し、軟食せぬよう心掛け、蒸煮料理はまれつき好物の甘い物も出来る限り敬遠して代りに果物を多く摂って、標準体重の維持に心掛けております。

(四)　窓硝・太陽・水・バナナ

これは、曾てのバナナの宣伝標語になった秀句ですが、私がこれを五則の一にしたのは、バナナを高血圧患者の主食の代用食にもなる強壮として高く評価しているからです。

脱脂牛乳、豆類（アゲ、豆腐等）甘藍、とうもろこし、酢のもの等と共に、バナナはレモンみかんに次ぐ大切なもので、特に旅行には欠かせぬものです。

公害のため、汚濁された空気、大喝、水の三者を正しく取り入れる努力が極めて重要となって来ましたが、個人の力及ばぬ天然の物ばかりに、我共の対応策にも自ら限界があることを感ずるとします。

(五)　温厚愛情の生活

森羅万象を言うこの語句は敢て説明を要しますまい。老境に入ると特にこの心構えを以て日常の活動を維持することが大切と敬えられます。私は深呼吸を加味した座禅の効験を聞かされ前掲「快神」の境地に導かれて自ら温厚となり愛語の出づる日々是好日の気がする昨今です。（終）

藤田氏「私の五戒五則」に寄せて

井谷幹一

私たちが人を評して、「年より若い」とか、「老けている」とかいう時、なにを根拠として言うのであろうか。沢山あげられるだろうが、姿勢、声音、眼光は欠かせぬ要素と思われる。

筆者、藤田さんは、この三つとも抜群な"張り"がある。小ぶりとかなりな、筋肉の発達した体を、しゃっきりぱっと、視線をピタと据えて、明晰な構音で、よどみなく喋られるのを聞いていると、古稀の齢を感じさせない。文字通り年より若いのである。

こんど、恵贈をうけた二文"五戒五則"を通読して、上にあげた外見の張りが、実は強固な内面の張りに支えられているのを知りたいへん感銘をうけた。

薄味に調理した清潔の食物を充分噛んで食べ、一日に一時間を歩き良く眠り、温顔微笑をモットーとして人に接する、ということは、中年以後の養生訓として参考とするところがある。

ひとつ、ひとつは平凡な原理なから、多年、これを実行するには並の意志力ではダメで、藤田さんの不退転の政策にも似た心の"張り"があってはじめて可能となるのである。そして、この張りが副腎皮質機能の働きをたかめ、老人くささを払拭しているのであろう。

もっとも、張り切ってばかりでは、どんな機械もたまらない。藤田さんの場合も、なが年にわたって築きあげられた物心両面の"ゆとり"が健康を支えるもう一つの大きな柱になっていることは論を俟たない。藤田さんの温顔は無理に装はれたものでなく、内からじみ出たものと考えられる。（後略）

（註）井谷幹一氏は井谷病院々長、京都大学で出身の医学博士で当市における数多い内科医の中でも、最も風格より信頼を受け、尊敬されている先生の一人で已に幾度も外遊せられ研究心旺盛な立派な御一方。

（飲食の摂り方
（医薬の用い方
（運動の仕方
（感覚、眼鏡の択び方
（物理療法の検査
等多岐にわたるため、これの適応に遺漏のない養法を実施しその綜合の成果を期待せねばならぬという事柄の多さであるという事実です。

従ってこれを完璧を期することは、一種の芸術といっても過言ではないが、併し同時にまた決して不可能事ではないということです。

（飲食の摂り方
（医薬の用い方
（運動の仕方
（感覚、眼鏡の択び方
（物理療法の検査
等多岐にわたるため、これの適応に遺漏のない養法を実施しその綜合の成果を期待せねばならぬという事柄の多さであるという事実です。

従ってこれを完璧を期することは、一種の芸術といっても過言ではないが、併し同時にまた決して不可能事ではないということです。

名方面で表彰されている今日、豪州の豪農性はますます高まっており、このような陰にオーストラリアの実情を見聞し得たことを幸いに思うと共に、現地で活躍の政府機関の方々、並びに同国の方々のご協力を得たことを心から感謝している。